

研究課題名	黄斑疾患の硝子体手術の術後成績と予後因子について
研究責任者名	広島大学大学院医系科学研究科視覚病態学 教授 坂口 裕和
研究期間	実施許可日 ～ 2036年 3月 31日
対象者	2016年1月から2035年3月の間に、広島大学病院眼科で黄斑疾患による硝子体手術を受けた患者さん。
意義・目的	黄斑疾患（黄斑上膜、黄斑円孔）に対し、硝子体手術を受けた患者を後ろ向きに調査して術後成績と予後因子を検討します。
方法	<p>本研究は、診療録（カルテ）情報を調査して行います。</p> <p>カルテから使用する内容は年齢、性別、術前後の視力、黄斑円孔径、眼軸、術者、自覚症状がでてから手術までの期間、網膜厚、術後の外境界膜、ellipsoid zone の復元率、閉鎖率、網膜感度、OCTangiography です。</p> <p>利用開始予定日は本学における実施許可日(2020年8月21日)以降です。</p> <p>(個人を特定可能な情報は解析に用いません)</p>
共同研究機関	なし（本学単独研究のため外部へ情報提供は行いません）
試料・情報の管理責任者	広島大学大学院医系科学研究科視覚病態学 教授 坂口 裕和
個人情報保護について	<p>調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんので安心ください。</p> <p>研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されている場合には、提供していただいた情報や試料に基づくデータを結果から取り除くことが出来ない場合があります。なお公表される結果には、特定の個人が識別できる情報は含まれません。</p>
問合せ・苦情等の窓口	<p>〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3</p> <p>TEL : 082-257-5247</p> <p>広島大学 医系科学研究科 視覚病態学</p> <p>教授 坂口 裕和（研究責任者）</p> <p>診療講師 定秀 文子（担当者）</p>